



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (22) 7207 番

94.3.29 No. 3968

格差を徹底的に要求せよ

奮闘 女歩 速報

昨日、動労総連合は、四二〇〇円の賃金引き上げを求めて、JR貨物との団体交渉に臨んだ。しかし、貨物会社当局は、具体的な回答を行なおうとしない不誠実な対応に終始し、二一時過ぎ、この日の団体交渉は打ち切られた。貨物当局が回答を拒み続けた唯一の根拠は、「JR北海道・九州の回答が未だ出されないから」ということである。このような理由で回答を先延ばしすること自体、極めて不誠実な交渉態度だ。貨物当局は、JR北海道や九州の動向をにらんでいるだけで、組合要求を真剣に検討しようともしていないのだ。このようなかたちで賃金を決定しようとすることは、明らかに不誠実な交渉である。

新小岩支部は、二四日正午から二五日正午までの春季第一波ストライキを支部全組合員の総決起のもとで貫徹しました。貨物会社は、この間、社長の記者会見を始めとして「50億を越える赤字決算になる」「だから、賃下げは止むなし」、と早くから格差を背景に分割・民営化の矛盾と経営責任の一切を現場労働者に転嫁する貨物会社当局に我々は激しい怒りと弾劾の声を叩きつけ、第二波ストを貫徹する。そもそも巨額なレール使用料などを旅客会社に支払いながら「赤字だ。減収だ。」を叫んでも茶番に過ぎない。これを格差・超低額回答の理由としてきたのだ。ところが、今度は、JR北海道・九州の回答が出るまで、貨物会社は回答できないというのだ。その時その時で理由を使い分けて、とにかく賃金を低額に抑えこもうというのだ。断じて許すことはできない。なお同日、JR四国は、三、二五%、九五六〇円の低額回答を示した。北海道・九州は、四国以下の低額回答を画策している。そして、これをにらんだ貨物会社当局は、更に超低額回答を画策しているのだ。われわれは、格差・低額回答を断じて許すことはできない。格差回答打破・大幅賃上げ獲得を目指し、更に闘いを強化しよう！

貨物会社と三島の旅客会社の労働者はJR発足以降、毎年賃金格差攻撃を受けてきた。われわれは他社より多くよこせと言っているのではない。分割・民営化の矛盾を労働者に転嫁し、格差をつけるのは止めると言っているのだ。新小岩支部は、清算事業団闘争の勝利をはじめ、貨物八〇〇〇人体制粉砕、今秋の動乗勤改善阻止に向けて、春季の闘いを突破口に全力で闘いぬく。(新小岩支部・川田書記次長)



24-25日 報告 (新小岩)

三月二八日、千葉地裁は、清算事業団が九二年八月に、高石君、林君の両名を相手取って宿舍からの退去を求めて提訴した裁判で、「建物を明け渡せ」という内容の反動判決を下してきた。この判決は、清算事業団闘争を闘う二名の生活基盤を破壊し、清算事業団闘争そのものを解体しようとする意図を含めて出された反動命令である。さらに、国労が、昨年の一・二・四の中労委命令の取り消しを求めて行政訴訟を行なった直後にこの判決が出されたことを見ても、この判決の反動性は明らかである。動労千葉は、二名の生活基盤を守りぬくとともに、清算事業団闘争勝利へ向けてただちに控訴し、闘いぬくものである！

清算事業団宿舍 明渡公判 反動判決弾劾!

三月二八日、千葉地裁は、清算事業団が九二年八月に、高石君、林君の両名を相手取って宿舍からの退去を求めて提訴した裁判で、「建物を明け渡せ」という内容の反動判決を下してきた。この判決は、清算事業団闘争を闘う二名の生活基盤を破壊し、清算事業団闘争そのものを解体しようとする意図を含めて出された反動命令である。さらに、国労が、昨年の一・二・四の中労委命令の取り消しを求めて行政訴訟を行なった直後にこの判決が出されたことを見ても、この判決の反動性は明らかである。動労千葉は、二名の生活基盤を守りぬくとともに、清算事業団闘争勝利へ向けてただちに控訴し、闘いぬくものである！

発言の中心人物 高石君